

2013年夏季ボーナスアンケート調査(宮崎県内)

当研究所では、県内における消費動向あるいは生活実感などを探るため、1979年以降、毎年夏冬の年2回ボーナスアンケート調査を実施している。以下、今年の夏のボーナスについて、5月中旬から下旬にかけて実施した調査結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. ボーナスは「支給される」が83.7%と、前年比3.5ポイント（以下、「P」）低下した。増減見込みは「同じくらい（73.2%）」が7割を超えた。
2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満（40.0%）」が最多である。
3. 使いみちは「貯蓄（72.9%）」が前年同様トップで、貯蓄の目的は「家計の補充（38.9%）」、貯蓄方法は「定期性預貯金（65.1%）」が最も多い。
4. ボーナスでの購入予定品は「洋服（52.2%）」に次いで「アクセサリ・腕時計（12.1%）」が2位で、買い物予定先は「ショッピングセンター（48.8%）」が約半数を占めた。県外での買い物先は「福岡市（55.4%）」が最も多かった。
5. 生活状況DI「▲8.8（前年比+0.3P）」は4年連続で改善した。

調査の実施要領

調査時期：2013年5月10日(金)～5月31日(金)

調査対象：県内の給与所得者（宮崎銀行営業部店経由）

調査方法：無記名アンケート方式

回答者数：719名

回答者の属性（単位：人、%）

年代別	人数	構成比
20歳代以下	136	19.3
30歳代	165	23.4
40歳代	219	31.0
50歳代	159	22.5
60歳代以上	27	3.8
合 計	706	100.0

世帯別		人数	構成比
独 身		227	32.4
既婚	子供有り	61	8.7
	子供無し	387	55.3
その他		25	3.6
合 計		700	100.0

性 別	人数	構成比
男 性	266	37.7
女 性	440	62.3
合 計	706	100.0

注）本稿では、アンケートの各質問項目での「不明（記入の無いもの）」は集計から除いた。
また、四捨五入の関係で合計が100%とにならないこともある。

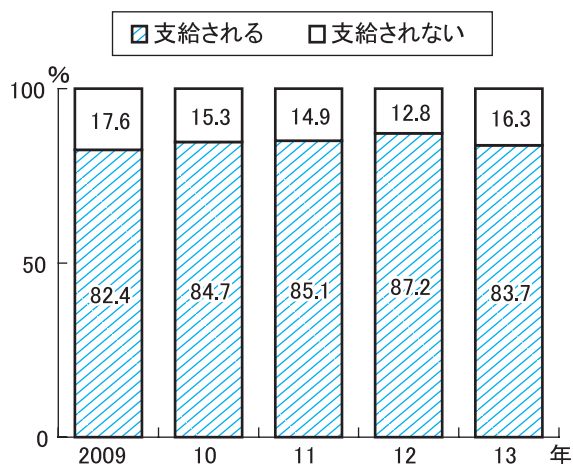
本アンケート調査につきまして、宮崎銀行経由でご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました。

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が減少

今夏のボーナスは「支給される」が83.7%で前年比3.5P低下し、8年連続で9割を割り込んだ(図1)。

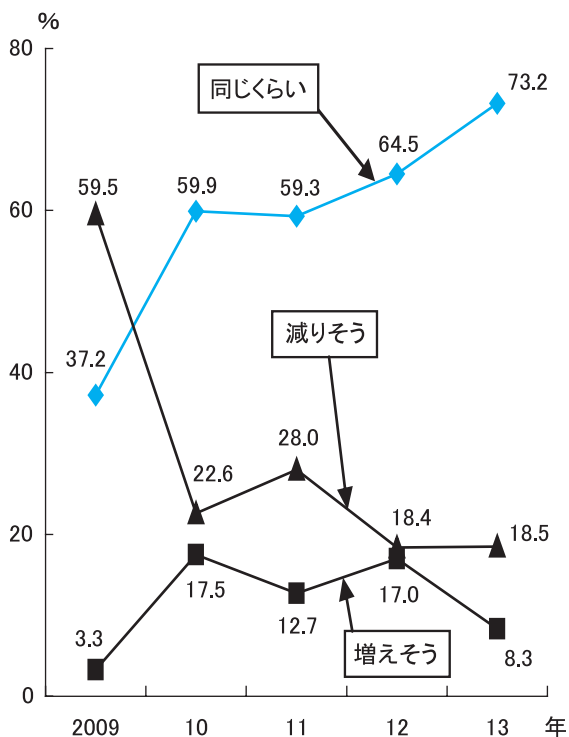
図1. 夏季ボーナス支給の有無



(2) 「同じくらい」が7割超

ボーナスの増減見込みは「同じくらい」が73.2%(前年比+8.7P)と7割を超えた。一方、「増えそう」は同8.7P低下し、「減りそう」はほぼ横ばいとなった(図2)。

図2. 夏季ボーナスの増減見込みの推移



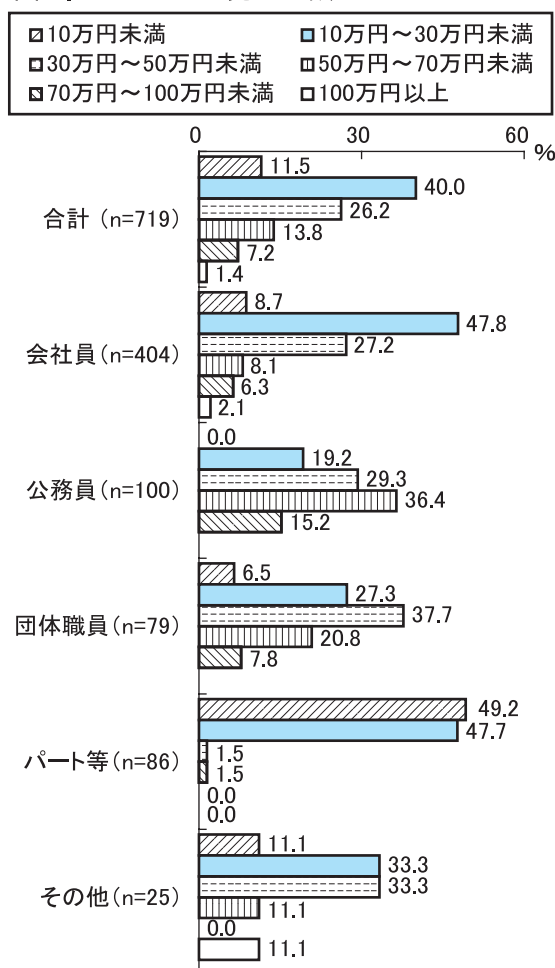
2. ボーナスの見込み額

「10万円以上30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体では「10万円以上30万円未満(40.0%)」が最も多かった(図3)。

会社員の見込み額は、100万円未満では「30万円以上50万円未満(前年比+2.8P)」を除き、前年比ほぼ横ばいであった(表1)。

図3. ボーナスの見込み額



※「パート等」には、アルバイトを含む。

表1. 会社員の見込み額 (前年比)

(単位: %, P)

	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～80万円未満	80万円～100万円未満	100万円以上
2013年	8.7	47.8	27.2	8.1	6.3	2.1
2012年	9.5	47.9	24.4	8.4	5.9	4.1
前年比	▲0.8	▲0.1	2.8	▲0.3	0.4	▲2.0

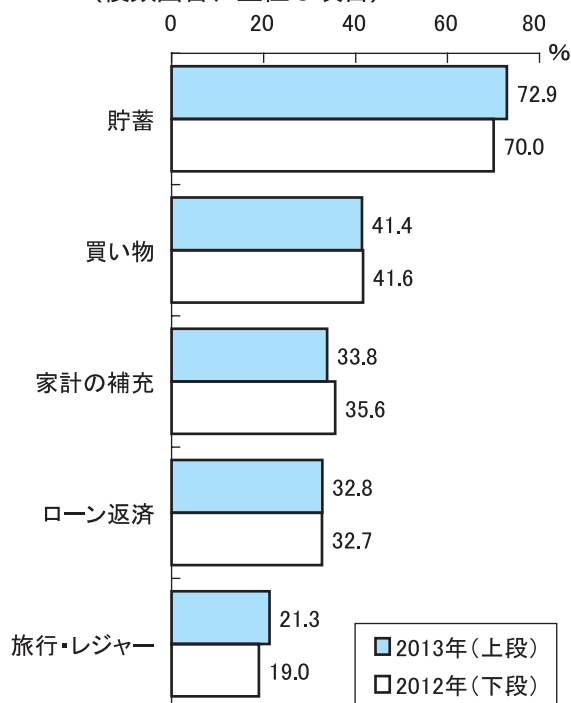
3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄」がトップ

ボーナスの使いみちでは「貯蓄(72.9%)」が最多で、「買い物(41.4%)」「家計の補充(33.8%)」と続いた(図4)。

図2の夏季ボーナスの増減見込み(「同じくらい」が73.2%)の結果から、使いみちも前年と比べて大きな変化は見られなかった。

図4. ボーナスの使いみち
(複数回答、上位5項目)



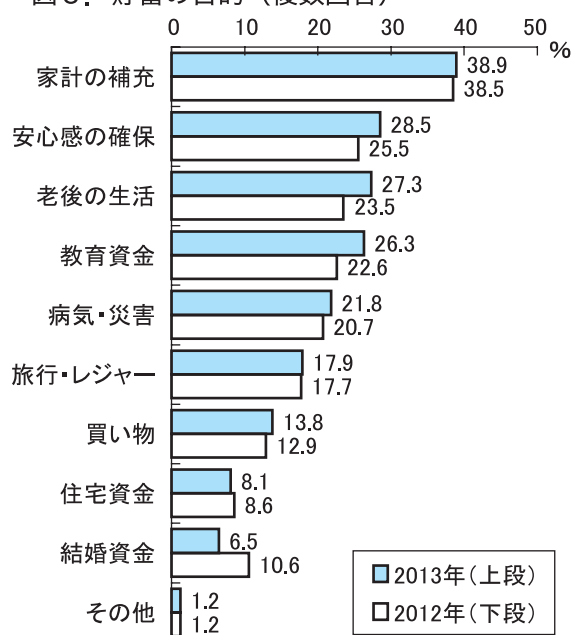
(1) 貯蓄の目的(複数回答)

「今後の家計の補充のため」が1位

貯蓄の主な目的は今後の「家計の補充(38.9%)」「安心感の確保(28.5%)」など、日常の支出に備える回答が前年同様、上位を占めた。

特に「老後の生活(同+3.8P)」「教育資金(同+3.7P)」など、将来の支出に備える回答が前年比増加した。一方「結婚資金」は同4.1P低下した(図5)。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)



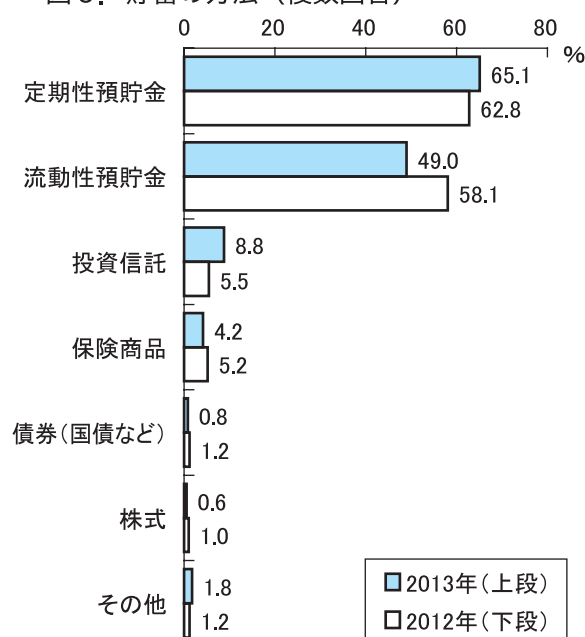
(2) 貯蓄方法(複数回答)

「定期性預貯金」が最多

貯蓄方法は、「定期性預貯金(65.1%)」「流動性預貯金(49.0%)」の回答が多かった。

前年比では、「流動性預貯金」が9.1P低下した一方、「投資信託(+3.3P)」「定期性預貯金(+2.3P)」は上昇した(図6)。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



(3) ローン返済 (複数回答)

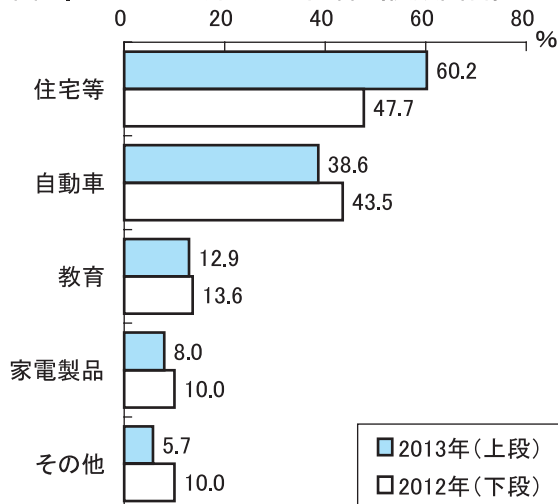
「住宅等」「自動車」が2大項目

住宅取得・リフォームなど「住宅等(60.2%)」の回答が最多で、「自動車(38.6%)」とともにローンの2大項目となっている(図7)。

「住宅等」は前年比12.5P上昇しており、2014年4月に予定される消費税率引き上げに備えた動きと思われる。

一方、「自動車(同▲4.9P)」は2012年9月のエコカー補助金終了が低下した要因の一つと考えられる。

図7. ローン返済予定の内容 (複数回答)



※「住宅等」は「住宅・リフォーム」を示す。

(4) 購入予定品 (複数回答)

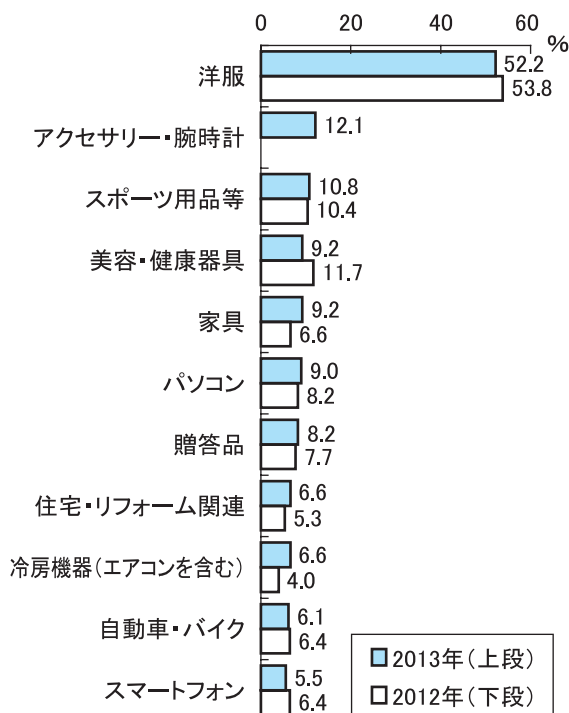
「洋服」が最多

購入予定品は「洋服(52.2%)」が最多で、以下「アクセサリ・腕時計(12.1%)」「スポーツ用品等(10.8%)」となった(図8)。

「洋服」は前年比1.6P低下した一方、新たに選択肢に加えた「アクセサリ・腕時計」が2位となるなど、ファッション関連商品の回答が多かった。3位以下はそれぞれの回答数が全体の1割以下で

あり、消費を牽引する目立った商品に乏しい状況にあることがうかがえる。

図8. 購入予定品 (複数回答)



※「スポーツ用品等」は「スポーツ・レジャー・アウトドア用品」の略。

(5) 買い物の予定 (複数回答)

① 買い物先の店舗形態 (複数回答)

買い物予定先を店舗の形態別でみると、「ショッピングセンター(以下SC)(48.8%)」が最多で、以下「デパート・百貨店(41.9%)」「通販・ネットショップ(27.6%)」と続いた(次頁表2)。

前年と比べて、「SC(前年比▲6.6P)」「専門店(同▲0.3P)」が下回った一方、「デパート・百貨店(同+4.0P)」「通販・ネットショップ(同+5.3P)」「量販店(同+3.4P)」は比率を上げた。

居住地別では、「宮崎市」「延岡市」で「デパート・百貨店」が前年比上昇した。特に「宮崎市」は回答の半数が「デパート・百貨店」を買い物先にした。

表2. 買い物先の店舗形態（複数回答）

（単位：％）

買い物先 居住地	ショッピング センター	デパート・ 百貨店	通販・ネット ショップ	専門店	量販店
全 体	48.8	41.9	27.6	27.3	25.7
	55.4	37.9	22.3	27.6	22.3
宮崎市	48.2	50.0	23.2	27.7	26.8
	55.2	39.7	18.4	27.8	22.7
都城市	50.0	36.6	29.3	24.4	34.1
	53.8	38.5	23.9	35.4	23.1
延岡市	46.2	42.3	34.6	21.2	17.3
	44.2	39.5	25.0	11.6	30.2

※上段：2013年 下段：2012年

②買い物予定地（複数回答）

「宮崎市周辺」（注1）「都城市周辺」（注2）の回答者は「地元」を、「小林市周辺」（注4）「日南市周辺」（注5）の回答者は「宮崎市」を買い物予定地とする比率が高かった（表3）。

前年比では「日南市周辺」で「都城市（+30.4P）」「地元（+22.1P）」と回答する比率が大幅に上昇した。

「県外」を買い物予定地とする回答は、「延岡市周辺（57.6%）」（注3）が最も高かったが、前年比では「日南市周辺」を除き、すべての地区でマイナスとなり、県外での買い物を減らす様子がうかがえた。

表3. 買い物の予定地（複数回答、居住地別）

（単位：％）

買い物先 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	小林市	日南市	県 外
宮崎市	93.6	2.9	0.6	0.6	-	29.1
周辺(注1)	92.7	3.1	1.1	-	0.4	30.7
都城市	50.5	82.9	-	2.9	-	41.0
周辺(注2)	53.6	73.8	-	1.2	1.2	46.4
延岡市	35.9	-	52.2	-	1.1	57.6
周辺(注3)	38.3	-	56.5	-	-	58.3
小林市	66.7	39.4	-	57.6	-	39.4
周辺(注4)	70.0	40.0	-	56.7	-	43.3
日南市	88.2	47.1	-	-	47.1	35.3
周辺(注5)	75.0	16.7	-	-	25.0	25.0

※上段：2013年 下段：2012年

（注1） 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡

（注2） 都城市、北諸県郡

（注3） 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡

（注4） 小林市、えびの市、西諸県郡

（注5） 日南市、串間市

（6）県外での買い物予定地（複数回答）

「福岡市」が1位

県外での買い物予定地は、「福岡市（55.4%）」が最多で、2位以下は「鹿児島（40.1%）」「熊本市（29.9%）」と前年同様の順位となった。前年比では「福岡市（▲6.6P）」の低下が目立つ一方、「鹿児島市（+10.9P）」は大幅に上昇した。

表4. 県外での買い物予定地（複数回答）

（単位：％）

	福岡市	鹿児島市	熊本市	大分市
2013年	55.4	40.1	29.9	16.9
2012年	62.0	29.2	26.4	17.6

4. 県外での買い物頻度と交通手段

（1）買い物頻度

最近1年間の県外主要4市における買い物頻度は、すべての市で「2～4回」が最も多かったが、前年比では「大分市」を除き、それぞれ低下した（表5）。

表5. 県外主要4市への買い物頻度

（単位：％）

頻度	福岡市	鹿児島市	熊本市	大分市
1回	40.9	33.7	39.1	35.3
	34.0	28.0	39.0	38.1
2～4回	47.2	44.9	41.8	40.2
	50.0	52.8	47.6	39.8
5～9回	9.4	14.4	12.1	11.8
	11.6	11.5	5.3	10.2
10回以上	2.4	7.0	7.1	12.7
	4.4	7.8	8.0	11.9

※上段：2013年 下段：2012年

（2）交通手段

買い物の交通手段は、主要4市すべてで「乗用車」の利用が最も多かった。

前年比では、「高速バス」が「福岡市」「鹿児島市」で低下した一方、福岡市では「乗用車」、鹿児島市では「JR」の比率が上昇した（次頁表6）。

表6. 県外主要4市への交通手段

(単位: %)

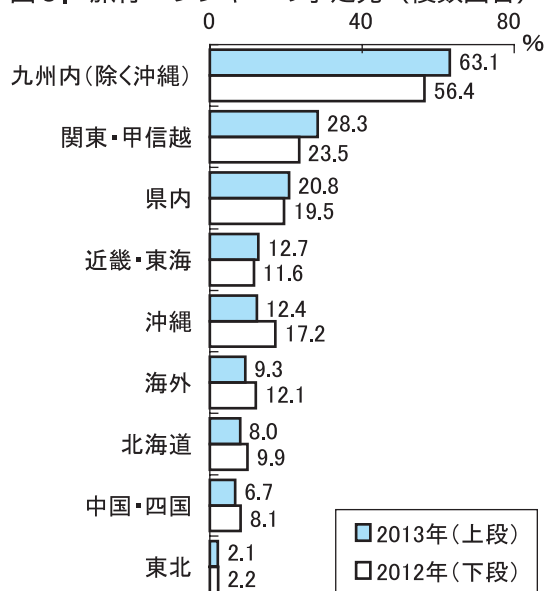
交通手段	福岡市	鹿児島市	熊本市	大分市
乗用車	54.5	87.6	90.9	96.9
	52.4	90.1	91.5	90.9
高速バス	36.9	2.4	8.3	0.0
	41.1	4.5	8.0	1.8
J R	3.4	10.0	0.8	3.1
	3.1	5.4	0.6	7.3
飛行機	5.2	-	-	-
	3.4	-	-	-

※上段: 2013年 下段: 2012年

5. 今後の旅行・レジャー先(複数回答) 「九州内」が最多、「関東・甲信越」が2位

今後の旅行・レジャー先では、1位は「九州内(63.1%)」で、以下「関東・甲信越(28.3%)」「県内(20.8%)」「近畿・東海(12.7%)」となった。上位4位はそれぞれ前年比上昇した一方、「沖縄」は同比4.8P低下し、「近畿・東海」と順位が入れ替わった(図9)。

図9. 旅行・レジャーの予定先(複数回答)



6. 現在の生活状況

生活状況D I は4年連続で改善

現在の生活状況は、住生活を除いて改善傾向が見られ、全体のD I(注)は「▲

8.8」と4年連続で改善した。内訳では「衣生活」D Iが前年比2.6P改善したものの、住生活D Iの悪化などから、全体のD Iは同0.3Pとわずかな改善にとどまり、ほぼ横ばいになった(表7、図10)。

表7. 現在の生活状況

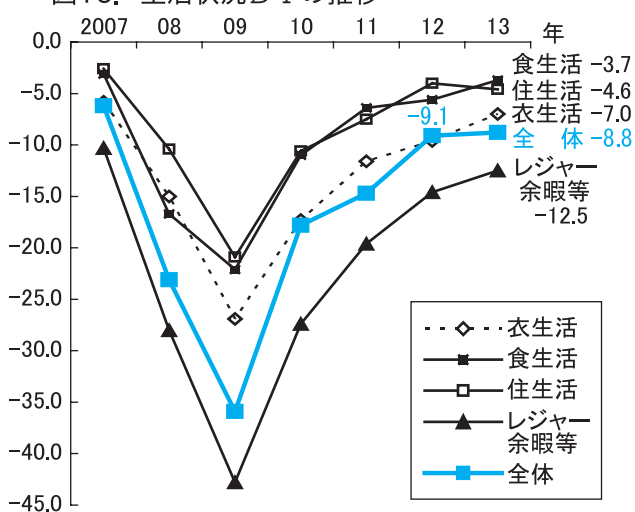
(単位: %, P)

	良くなった	変わらない	悪くなった	D I
全 体	6.1	79.0	14.9	▲ 8.8
	7.9	75.1	17.0	▲ 9.1
衣生活	3.9	85.2	10.9	▲ 7.0
	4.6	81.2	14.2	▲ 9.6
食生活	5.0	86.3	8.7	▲ 3.7
	5.4	83.6	11.0	▲ 5.6
住生活	4.2	87.0	8.8	▲ 4.6
	6.1	83.8	10.1	▲ 4.0
レジャー 余暇等	6.9	73.7	19.4	▲ 12.5
	8.8	67.9	23.4	▲ 14.6

※上段: 2013年 下段: 2012年

(注) D I = 「良くなった割合」-「悪くなった割合」

図10. 生活状況D Iの推移



今回の調査では、ボーナス支給額が「同じくらい」、使いみちでは、「投資信託」「定期性預金」「住宅ローン返済」「デパート・百貨店での買い物」の回答がそれぞれ増えたなどの特徴が見られた。また、生活状況D Iは前年比ほぼ横ばいであり、ボーナスの使いみちも前年並みになると予想される。(勝池)